

女性の健康週間 3月1日～8日

20歳以上の女性は頸がん検診を 上坊敏子・相模野病院婦人科腫瘍センター長

原因もがん化過程も わかってる唯一のがん

厚生労働省は、毎年、3月1日～8日を「女性の健康週間」として女性の健康づくりを国民運動として展開している。そこで今月号では、「子宮頸がん」に焦点をあて、子宮頸がん（検診）をとりまく現状と今後の展望について、「子宮頸がん征圧をめざす専門家会議」の委員で、地域医療機能推進機構 相模野病院婦人科腫瘍センター長の上坊敏子医師に寄稿いただいた。

最近の子宮頸がんの動向

わが国の子宮頸がん罹患率は、近年微増傾向にあります。子宮頸がんの患者さんのピーク年齢は30年前には60～70歳代でしたが、近年は若年女性の罹患が急増して30歳代がピークになっています。罹患率増加に伴って死亡数も増加し、最近の年間死亡数は約3,500人と推定されています。特に若年女性の死亡率上昇が目立っており、出産年齢の女性にとっては最も重大な悪性腫瘍です。このような状況から、子宮頸がんの予防は急務となっています。

子宮頸がんの原因と考えられる予防法

大部分の子宮頸がんは、性行為によって感染するヒトパピローマウイルス（HPV）が原因になっています。HPV感染は、性交経験のある女性の80%が生一生涯に一度は経験するといわれ、ありふれた現象です。高リスク型HPVに感染しても自覚症状はありませんし、感染し

図1. 年代別子宮頸がん（上皮内がんを含む）罹患率の変化

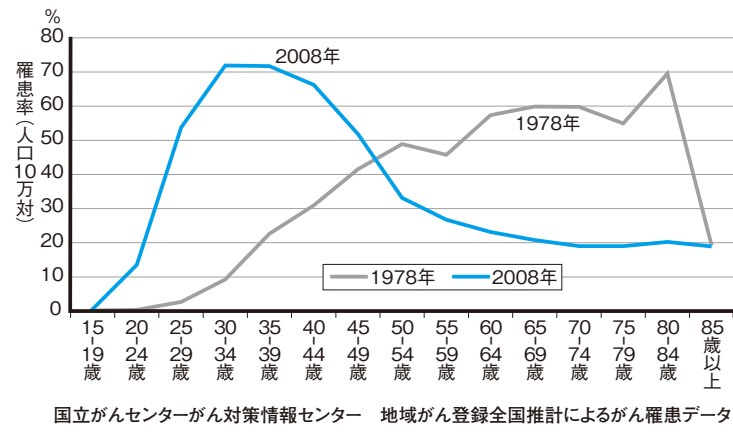
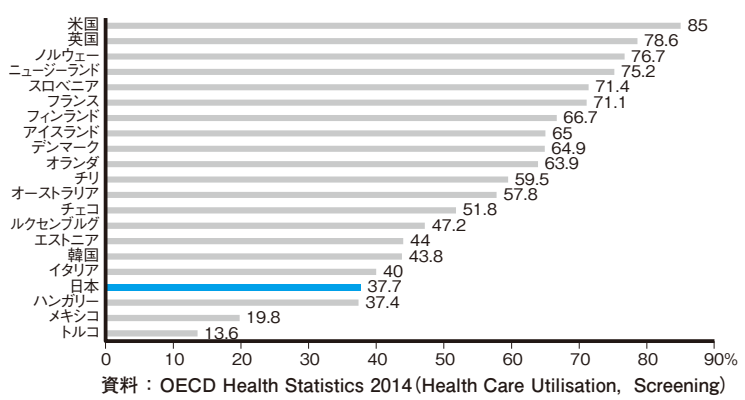


図2. 20歳～69歳女性の子宮頸がん検診受診率（2010年）
OECD Health Data 2014



子宮頸がんの死亡を ゼロに近づけるために

子宮頸がん検診の現状と課題

子宮頸がん検診には、「細胞診」という検査を使います。子宮頸部の表面から、専用のブラシなどで細胞を擦り取り、スライドグラスに塗り付け、特殊な染色で染めて、顕微鏡で観察する検査法です。細胞を採るのとはごく短時間で、痛みや検査後の出血もほとんどありません。

自治体による子宮頸がん検診は、20歳以上の女性を対象に隔年で行われています。検診は医療機関でも集団検診でも受けることができますが、費用は自治体によって、無料から1,500円程度です。このほかに妊婦健診の一環としても子宮頸がん検診は行われています。

欧米諸国では75%以上の高い受診率ですが、わが国は37・7%と非常に低いことが大きな問題です。国のがん対策基本法は受診率50%を目標にしていますが、自治体からの受診勧奨方法の工夫、20

晩期出血

序章

松村 奈緒美（松島ランドマーククリニック院長）

時のいきみ、便の物理的刺激、そして感染しやすい環境があげられる。このような要因で生じたと思われる痔瘻の出血にはもちろん遭遇する。しかし実際には、手術創は痔瘻の出血にはもちろん出血源になっていない場合もあり、排便や感染だけでは説明がつかない。

ところで、最近、抗血栓薬内服中の患者さんが増えている。循環器疾患の治療の進歩は目覚ましく、高齢化社会の折、今後ますます増えていくだろうことは想像に難くない。

ところが、ほとんどの抗血栓薬は、内服したままでは腰麻酔は行えない。通常は術前中止し、手術後止血が確認された時点で再開が望ましいとされているが、肛門科の手術ではこの「晩期出血」の可能性を考えると、どの時点で「止血確認」とするかは実に悩ましい。今後の肛門科診療の大きな課題の一つである。

HPV検診の動向

細胞診用採取した細胞の一部を使って、HPV感染の有無を検査することができ、細胞診は軽度のCINが見落とすことがありますが、HPV検査は偽陰性の頻度が非常に低い検査です。細胞診とHPV検査を併用すれば、見落としをほぼゼロにできます。

また、細胞診・HPV検査がともに陰性の場合、3年以内に高度のCIN以上の病変が発生する可能性が非常に低いことがわかっています。そのため、両検査が陰性だったときは検診間隔を3年に延長することができ、併用検査は、島根県をはじめ全国の100を超える自治体で実施されています。これらの自治体では、浸潤がんが減少傾向にあるそうです。HPV検査は、

少々高価な検査ですが、両検査陰性の受診者が多いため、最終的には併用検査の方が自治体・受診者のコストを削減することも明らかにされています。

日本産科婦人科医学会は、20歳代では細胞診による隔年検診を、30歳～65歳までは3年間隔の併用検査を推奨しています。さらに併用検査で3回連続陰性だった女性は、65歳で検診を終了することを提案しています。

子宮頸がんは原因もがん化過程もわかってる唯一のがんです。ワクチンと検診で、子宮頸がんによる死亡を限りなくゼロに近づけることができます。20歳以上の女性には、頸がん検診を受けてほしいと願っています。